

令和2年度 山口大学教育学部附属光学園（光中学校）学校評価書（校長 森本 忠寿）

1 学校教育目標	<p>【教育目標】 広い視野をもち、未来の社会をたくましく切り拓く人間の育成</p> <p>【目指す子ども像】 本質を見極めようとする子(ねばり強く考える子) 多様性を尊重し、協働できる子(自他を大切にできる子) 社会との絆を深める子(地域に愛される子)</p>
-----------------	---

2 現状分析（前年度の評価と課題を踏まえて）	<p>(1) 学力の向上 子どもの学力は、良好な状況にあり、「主体的・対話的で深い学び」の具体的な授業づくりの一層の充実が期待される。主体的に取り組める家庭学習の改善に昨年度着手したが、子ども・保護者への浸透は不十分であり、本年度の課題である。</p> <p>(2) 心の教育の推進 子どもの自己肯定感は概ね高く維持されているが、中学校においては、課題の見られる学年もある。互いの違いを受容し、尊重できる集団の醸成を一層進めていく必要がある。小学校では、子どもの自己評価と保護者や教職員の評価とのずれ見られ、取組に課題がある。</p> <p>(3) 健康・安全と体力の向上 インターネットの利用等にかかわる生活リズムの乱れ、体調不良が見られ、家庭との一層の連携が必要である。各家庭での取組の共有や、子ども・保護者への積極的な情報発信を通して、自身の健康・安全や体力への関心を高めることが課題である。</p>	<p>(4) 学部・保護者・地域との連携の強化 学部との連携では、小中間で評価に差が生じており、中学校での学部連携が課題である。小学校で実施している学校からのニーズに応じた短期プログラムの取組を中学校に広げたい。また、オンラインでの連携等、感染症対策の面からも連携体制を構築していくことが必要である。 地域連携では、学校運営協議会と教職員で共有した教育目標と子ども像を基にして、子どもの学校運営の参画を具現化していく。一人ひとりが主体となるような学校運営の改善が必要である。</p> <p>(5) 業務改善の推進 昨年度まで進めてきた業務改善を継続する中で、子どもとの向き合い方の質を高めるとともに、附属学校の使命を果たす教職員集団の一層の醸成を図っていく。</p>
-------------------------------	---	---

3 本年度重点を置いてめざす成果・特色、取り組むべき課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業力や業務遂行能力の質的な向上を通して、子どもと向き合う時間の一層の充実を図る。 ○ 子ども・保護者・地域・教師が一体となった取組の充実を通して、協働的な学園風土の醸成を図る。 ○ 一人ひとりが考え判断する場を通して、自他の存在を大切にできる行動力の伸張を図る。 	} (学力)(心の教育)(健康・安全と体力)(学部・保護者・地域連携)(業務改善)
-------------------------------------	--	---

4 自己評価	評価領域	重点目標	課題解決に向けての取組(具体的方策)	評価基準	達成度	達成状況の診断・分析	
学力の向上	思考力・判断力・表現力を確かなものにする学びの推進	○ 主体的・対話的で深い学びについての実践の充実と情報発信	○ 子どもに育む資質・能力に特化したカリキュラムの深化充実	○ 個の特性に応じた指導改善	子ども・保護者アンケート(授業関連)の肯定的回答 4(95%以上), 3(90%以上), 2(85%以上), 1(85%未満)	2	<今年度 生徒 95, 保護者 87%> ・教師の授業改善や本学園の実践研究が生徒一人ひとりの学力向上につながるよう努める。
		○ 各学年の課題に応じた家庭学習方法の実践と検証	○ 子どもに育む資質・能力に応じた家庭学習方法の実践と検証	保護者アンケート(家庭学習・学力)の肯定的回答 4(80%以上), 3(75%以上), 2(70%以上), 1(70%未満)	3	<今年度 保護者 77%> ・後期は前期よりやや上昇。自主学習や定期考査、入試に向けた計画的な家庭学習について家庭と連携して取り組みたい。	
心の教育の推進	自他を大切にできる受容的な集団の醸成	○ 道徳科の授業づくりを通じた、子どもの変容の見取りと評価	○ 学校行事への主体的な取組を通じた集団づくり	子ども・保護者・教職員アンケート(道徳科)の肯定的回答 4(95%以上), 3(90%以上), 2(85%以上), 1(85%未満)	3	<今年度 生徒 96, 保護者 90, 教職員 94%> ・ほとんどの生徒が道徳科の授業がよりよい生き方につながっていると実感していることがわかる。	
		○ 登下校中や公共の場での態度の価値付けを通じた、望ましい集団づくり	○ 子どもの自治的な工夫・改善を通じた主体的な取組の推進	子ども・保護者・教職員アンケート(規範)の肯定的回答 4(90%以上), 3(85%以上), 2(80%以上), 1(80%未満)	2	<今年度 生徒 92, 保護者 90, 教職員 80%> ・昨年9月からPTAによる朝の挨拶交通安全・挨拶指導ボランティアが始まった。家庭と連携して心を育みたい。	
健康・安全と体力の向上	自らの生活の課題を意識し、工夫しようとする意欲・態度の育成	○ 本校の実態に即した、早寝・早起き・朝ご飯の啓発、食育指導、保健指導、ネット利用の指導を通じた、健康的な生活習慣や態度の育成	子ども・保護者アンケート(生活)の肯定的回答 4(80%以上), 3(75%以上), 2(70%以上), 1(70%未満)	2	<今年度 生徒 86, 保護者 72%> ・自己の健康管理やメディアコントロール等について、授業や生徒会活動、たより等を通して、望ましい生活習慣を大切に育てたい。		
		○ 運動場面を捉えた具体的な安全指導の充実	○ 体育科の授業や家庭生活での実践を通じた柔軟性の向上	校内・校外での骨折 4(5件以下), 3(10件以下), 2(15件以下), 1(16件以上)	3	<今年度 骨折件数9件> ・校内8件、校外1件。コロナ禍による運動不足の影響もあるだろう。準備運動を十分行うなど安全に活動するように促していきたい。	
学部・保護者・地域との連携	学校と学部との連携を密にした教育研究の推進	○ 9年間を見通した定期的な情報提供及び教育実践研究サイクルの構築	教職員アンケート(学部連携)の肯定的回答 4(90%以上), 3(85%以上), 2(80%以上), 1(80%未満)	1	<今年度 教職員 53%> ・後期は前期より15%以上上昇。研究や総合学習等でオンラインによる連携を試みた。オンラインを活用して附属学校としての強みを生かしたい。		
		○ 学校webページを活用した各種情報発信の充実	○ 非常変災等、学校の危機管理に関する共通理解と訓練の充実	○ PTA、おやじの会への参加を通じた保護者同士の絆づくり	保護者アンケート(PTA等) 4(85%以上), 3(80%以上), 2(75%以上), 1(75%未満)	1	<今年度 保護者 69%> ・感染防止のため保護者の来校やPTA活動の機会が激減しているが、学校webページや各種たより等で情報発信している。
		○ 学校運営協議会、子どもとの熟議を通じたCSの充実	○ 附属学校の特性を生かしたCS機能の強化	4(子どもが参画した地域との取組), 3(子どもが参画した学校運営協議会との活動), 2(学校運営協議会の提案による新たな取組), 1(学校運営協議会での熟議)	1	・新型コロナウイルス対応により行事計画の中止等が相次ぎ、生徒が参画した取組の具体的な計画が遅れた。しかし、学校運営協議会委員と教職員の交流会を行うことはできた。	
業務改善	業務の見直しと効率化を通じた働き方の改善	○ 限られた時間内での子どもと向き合う時間の質の向上	○ 小中の同僚性の向上、組織内ネットワークの強化による業務の効率化	時間外労働時間の平均 4(42時間未満), 3(47時間未満), 2(52時間未満), 1(52時間以上)	1	<時間外労働時間平均70.1時間> ・後期は臨時休業明けの6月～8月の平均約70時間とほぼ同じ。教育の質を向上させるために小中連携やPTAの協力での業務改善を進める。	

5 学校関係者評価	
取組状況に関する意見・要望等	評価
・生徒の評価はたいへん高い。質の高い授業を実現できており、学力も着実に上がっていると思う。	3
・「家庭学習の手引き」に加えて、自主学習ノートの良い例を学び合う機会を設けるとよい。	3
・優しい生徒が多い印象を受けている。思いやりの心が育っていると思う。	3
・マナーが良いと思う。PTA腕章を活用しながら継続してマナーアップに取り組んでいくとよい。	3
・検温やマスクなど感染予防を心がけることで、自己管理能力が高まっているのではないかと。	3
・自己の健康に加えて安全にも十分気をつけて学校生活を送ってほしい。	3
・新型コロナウイルスにより学部との連携に制限がかかったことは否めない。来年度に期待する。	1
・感染防止を最優先したため今年度はやむを得ない。新型コロナウイルス終息後に期待する。	1
・学校運営協議会委員と教職員の「熟議」を来年度のはじめ頃に実施できるとよい。	2
・勤務時間が長いのは心配だが、とても頑張っていると思う。	1

6 学校評価の総括（取組の成果・次年度への改善策）	<p><取組の成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会が正式にスタートして2年目となった。コロナ禍にあっても、学校運営全般にわたって多くのアドバイスを受けることができた。特に第4回協議会の「熟議」は委員と教職員の交流ができた有意義な取組であった。来年度以降も継続していきたい。 ・ほとんどの生徒が道徳科の授業がよりよい生き方につながっていると実感しており、自他を大切にできる心が育まれ、学校生活が概ね落ち着いていると感じている。 ・オンラインを活用しての学校と学部とが連携した教育活動を進めることができたのは大きな成果であった。来年度以降も継続していきたい。 ・PTAの活動として新たに朝の交通安全・挨拶指導ボランティアや図書整備ボランティアを始めたところ、多くの保護者の協力を得ることができた。学校と保護者、保護者同士のネットワークづくりやコロナ禍における教師の業務負担の軽減になるように努めていきたい。 <p><次年度への改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会委員からのアドバイスや「熟議」を通して、本学園の目指す子ども像を実現するための具体的な取組について前に進めていきたい。 ・次年度は新しい学習指導要領の全面実施1年目となる。GIGAスクール構想の具現化とともに「主体的・対話的で深い学び」の具体的な授業づくりを実践し、一人ひとりの学力向上に努めていきたい。 ・研究校・実習校としての使命に加えて、新型コロナウイルス感染症対応の継続や、GIGAスクール構想の具現化に伴う教師の業務負担が増加傾向している。小中一貫校だからこそできる業務改善の模索や、業務の見直し等の自助努力を行うとともに、大学、PTA、おやじの会等に協力を求め、教師のライフワークバランスを大切にしながら教育活動の質の向上に努めたい。
----------------------------------	--